

長野美術専門学校
令和2年度事業報告書

学校法人クリエイティブA

I 法人の概要

1 建学の精神

人間に生きる歓喜（よろこび）と希望をもたせ続けてきたのは音楽と美術の力である

2 理念体系

(1) 教育理念

創造性の育みを以って豊かな社会形成に資する

(2) 信条

クリエイティブこそ社会形成の要である

(3) 教育目的

創造性の育み

(4) 育成人間像

目的に対し自由な精神で立ち向かう主体性を持った人間

(5) 使命

学生への最良の通過点の提供

3 沿革

1946.04 村田美術研究所を長野市に開設

1953 村田絵画研究所を併設

1964 長野市北石堂町にアトリエを新設 ※ここまでが、個人立絵画教室

1970.10 長野県知事より私立村田美術学校認可※公認の各種学校

学校長に村田武次就任

設置学科 造形科 絵画コース（2年制）/デザインコース（2年制）

1976.04 専修学校文化教養専門課程認可※専修学校専門課程として認可を受ける

1978.04 長野市岡田町に校舎新築移転 長野市岡田町81-9

1978.09 長野美術専門学校に名称変更

1981.09 造形科にレタリング・写植コース（1年制）を設置

1988.03 造形科レタリング・写植コース（1年制）を廃止

1991.12 創立20周年記念事業

1995.10 学校法人村田学園認可※個人立から法人立へ、公の学校としての位置付けを強くする

初代法人理事長に村田武次就任

1997.09 長野市中御所1丁目10-10に新校舎新築移転

1998.04 学科構成等変更

造形科へ建築デザインコース（2年制）を設置

研究科（1年制）設置

- 1999.03 別館「蔵」の増設
建築デザインコースは国家資格に係る学科であり、その設置条件を満たすための増設
- 2000.04 学校長に村田道子就任
- 2001.04 創立 30 周年記念事業
- 2002.03 学科構成等変更
造形科建築デザインコース（2年制）を廃止、
造形科デザインコース（2年制）、絵画コース（2年制）を統合し、造形科（2年制）とする。
- 2004.04 学校長に村田陽就任
- 2004.04 学科構成等変更
研究科（1年制）を2年制に変更
造形科をビジュアルデザインコース（2年制）、ビジュアルデザイン特修コース（2年制）に分ける。京都造形芸術大学通信教育部の併修制度を開始（特修コース）
※特修コースは主に進学を考える学生のためのコースとして設置された。
- 2005.10 法人理事長に村田陽就任
- 2005.10 学校長に小林勝彦就任
- 2007.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）2年次に映像授業開設
- 2007.04 学科構成等変更
造形科 アート・コミュニケーション科（1年制）開設
- 2007.07 法人理事長に小林勝彦就任
- 2009.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）に Web デザイン専攻・映像デザイン専攻を新設
アート・コミュニケーション科に2年制コースを設置したため、アート・コミュニケーション科1年制コース・2年制コースとする
- 2010.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）とビジュアルデザイン特修コース（2年制）を統合し、ビジュアルデザイン科（2年制）とする
- 2013.04 全学科単位制へ移行
美専修学ラインの設定
デザインライン／ドローイングライン／アートライン／映像ライン
- 2014.03 ビジュアルデザイン科2年制 職業実践専門課程認定
実践的な職業教育を高い質で確保している学校として「職業実践専門課程」法制化初年度に認定される
- 2015.04 学科構成等変更
ビジュアルデザイン科3年制を開設

- ビジュアルデザイン科はビジュアルデザイン科2年制に名称変更
- 2016.04 法人名称変更
「学校法人村田学園」を「学校法人 クリエイティブ A」に変更
C I（キャンパスアイデンティティ）の確立へ
学科名称変更
アート・コミュニケーション科1年制をビジュアルアート科1年制に変更
アート・コミュニケーション科2年制をビジュアルアート科2年制に変更
- 2016.04 学科構成等変更
美専修学ラインの充実を図る
アニメキャラクターライン（新設）／デザインライン／イラストレーションライン（ライン名変更）／ファインアートライン（ライン名変更）／映像ライン
- 2016.12 新キャンパス建設着工
- 2017.08 新キャンパス竣工
- 2019.04 研究科をプロジェクトデザイン工科へ名称変更
- 2019.07 サテライトキャンパス設置 長野県長野市中御所 森ビル新館1F
- 2020.03 ビジュアルデザイン科3年制 職業実践専門課程認定
- 2020.03 ビジュアルアート科1年制廃止
- 2020.04 美専修学ラインに「WEBメディアライン」を新設
- 2021.03 プロジェクトデザイン工科廃止

4 設置する学校

学校名	長野美術専門学校			
設置者	学校法人クリエイティブA			
郵便番号	380-0935	所在地	長野県長野市中御所1丁目10番10号	
電話番号	026-227-3229	FAX番号	026-227-3235	

5 設置する課程・学科・修業年限

課程	学科 (単位制)	修業 年限	卒業に必要な単 位数及び時間数		称号
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	2年	62	1700	専門士
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科3年制	3年	93	2550	専門士
文化教養専門課程	ビジュアルアート科2年制	2年	62	1700	専門士
文化教養専門課程	プロジェクトデザイン工科	2年	62	1700	専門士

6 学科等の入学定員、収容定員、入学者数、在籍者数

(単位：人)

課程	学科 (単位制)	定員	入学状況			4月 開始時
			入学 定員	入学 志願 者数	入学 者数	
文化教養専門課程(職 業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	100	50	28	28	44
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科3年制	45	15	2	2	6
文化教養専門課程	ビジュアルアート科2年制	40	20	13	13	28
文化教養専門課程	プロジェクトデザイン工科	20	10	0	0	0
合 計		205	95	43	43	78

7 役員・評議員・教職員の概要

(1) 役員概要

定数・人数・任期	区分	職名	氏名	
理事 定数6人 平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	第1号	理事長	小林 勝彦	長野美術専門学校甲校長
	第2号	理事	松本 直樹	長野美術専門学校副校長
	第3号	理事	松田 光平	市議会議員
	第3号	理事	伊東 工	映像制作会社代表
	第3号	理事	増澤 珠美	イベント運営団体代表
	第3号	理事	岡田智津子	デザイン制作会社代表
監事 定数2人		監事	瀬下 良幸	デザイン業自営
		監事	西澤 和博	デザイン制作会社役員
評議員定数13人	13人			
顧問	2人			

(2) 教職員の概要

職名	本務・兼務の別	勤務体制	合計(人)
校長	本務	常勤	1
教員	本務	常勤	9
教員	兼務	非常勤	19
連携企業派遣講師	兼務	非常勤	4
職員	本務	常勤	0

(3) 理事会・評議員会の開催状況

① 令和元年度理事会の開催状況は以下のとおりです

令和2年5月30日 定例理事会

令和3年1月30日 臨時理事会

令和3年3月27日 定例理事会

② 令和元年度評議員会の開催状況は以下のとおりです。

令和2年5月30日 定例評議員会

令和3年1月30日 臨時評議員会

令和3年3月27日 定例評議員会

II 事業の概要

1 当該年度の事業の概要

本年度の事業計画のひとつ、ビジュアルデザイン科3年制の職業実践専門課程認定を受け、新設学科の設置等デザイン系統の上位学科としての位置づけを強固にした。又、デザイン部門の充実を図るため、現行5つのラインに加え「WEBメディアライン」を新たに設置し、教育課程の更なる拡充・高度化を一部実現した。又、永年本学が現場で培ってきた教育指針を「3つのポリシー」（卒業認定に関する方針：ディプロマポリシー）（教育課程編成・実施の方針：カリキュラムポリシー）（入学者受け入れ方針：アドミッションポリシー）としてまとめ、掲げた。

上級学科として設置していた「プロジェクトデザイン工科」を本年度において廃止し、そのコンセプトを継ぐ学科として「com.デザイン総合学科を」令和3年度に新たに設置するものとした。

広報企画の拠点として設置したサテライトキャンパスにおいては、本校が既に持つ、授業内容・社会学連携活動・学生作品・卒業生の活躍等資産を、いかに広報できるかが重要であるとの意識の基に機能させていく予定としていた。しかしながら「新型コロナウイルス感染症」の影響により、予定していた社会人への公開講座を開講することができず、社会人のリカレント教育の部分では足踏み状態となったが、ギャラリースペースにおいて、卒業生による企画展を数回行い、同窓会との結びつきを強化することができた。

2 主な事業の目的・計画・計画の進捗状況

(1) 教育課程

各学科の修業年限、卒業に必要な単位数及び時間数

※ I—5 設置する課程・学科・修業年限 参照

学科方針

①ビジュアルデザイン科2年制／3年制

視覚的なデザインワークを学ぶ

人間生活全般に渡る物事を、視覚情報のデザインによって新たに考案する能力の獲得を目指す

②ビジュアルアート科2年制

アートワークを学ぶ

美術表現による幅広い芸術作品を造形する能力の獲得を目指す

③プロジェクトデザイン工科

クリエイティブワークを追究する

クリエイティブワークを社会に向けて実践する能力の獲得を目指す

本校の教育課程の特色として、クリエイティブ分野の専門性を将来につながる学びの「ライン」^①として設定している。これまでの「デザイン」「映像」「イラストレーション」「ファインアート」「アニメキャラクター」に加え本年度新たに「WEBメディア」を設置し、教育課程の更なる拡充・高度化を前進させた。

尚、ビジュアルデザイン科には「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEBメディア」ラインが、ビジュアルアート科には「アニメキャラクター」「ファインアート」ラインの科目が、プロジェクトデザイン工科には「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEBメディア」ラインが主に配当されている。

又、各「ライン」^①には、基礎を修得する「ベーシック」、オリジナリティを獲得する「パーソナル」、そして実践的な「プロフェッショナル」の3つのキャリアステージがそれぞれ設定されており、各ステージに応じて科目が構成されている。

修学期においては、年間の内4月～6月を「基礎履修期／さまざまな専門分野基礎的な科目を履修することができる」、7月～10月をゼミ期／それぞれの専門性に特化したライン別のゼミを展開、11月～3月を「総合制作期／年間の学びのまとめの期間、専門ラインごとの集大成となる制作に取り組み、年度末には総合制作展（美専展）で一般公開する」とし。総合制作を目指した学びの流れとしている。

職業実践専門課程である「ビジュアルデザイン科2年制」および、改めて職業実践専門課程に認定された「ビジュアルデザイン科3年制」においては、新たに商業系科目「ブランドマネジメント」を設け、各学科の特徴や、長期修学の特徴を強める方向性を進めた。

本年度の教育課程運営は「新型コロナウイルス感染症」の影響が大きく、危機管理委員会を頻繁に開き、教育課程運営の指針とした。予定していた連携授業や地域貢献への学生動員等断念せざるを得ないものもあったが、遠隔授業や校内の人数制限、教室使用後の消毒等感染予防対策等により新たな授業形態や教務運営の見直し等が進み、新しい教育課程運営へと進化ができたものと受け止めている。

(2) 連携学習

当年度の協定を交して行った企業等との連携学習は下表のとおり。

科目名	学習内容・テーマ	連携先企業・団体 ※敬称略	形態	実施日
キャリアデザインA	会社見学・先輩へのインタビュー	株式会社アドイシグロ 藤原印刷株式会社 株式会社共立ブランニング 株式会社エイブルデザイン 大日本法令印刷株式会社 ソルトライブホールディングス株式会社	企業内研修 コロナの影響で未協定	2020年 7月～8月
キャリアデザインB	コロナの影響で未協定	各所、履修生個別に対応	会社見学・ 会社ガイダンス	2020年 7月～8月
インターンシップA・B	現場・実務の学び	株式会社アドイシグロ（2020年7月-8月） 有限会社アドフォート・トリム（2020年7月） クリエイティブファクト株式会	企業内研修 コロナの影響で未協定	2020年 8月

		社 (2020年7月-8月) 株式会社りんごの木 (2020年7月-8月) 株式会社マルサン工芸 (2020年7月)		
ムービーメイキング	科目担当授業	有限会社アドフォート・トリム	講師派遣	2020年4月～6月 9月～11月
写真表現	新型コロナにより休止		講師派遣	
イラストレーション	新型コロナにより休止		講師派遣	
6次デザイン	科目担当授業	長野県デザイン振興協会	講師派遣	2020年4月～7月
	地域観光における媒体利用の実習 (観光PRツール制作) 道の駅しなの広報ツール・商品パッケージデザイン制作	信濃町ふるさと振興公社	実習	
ブランドマネジメント	科目担当授業	株式会社りんごの木	講師派遣	2020年4月～7月
ライン別ゼミ	人権啓発ポスターデザイン	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	2020年7月～10月
	人権学習 (制作テーマ)	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	
	道の駅しなの広報ツール・商品パッケージデザイン	信濃町ふるさと振興公社	実習	
		長野県デザイン振興協会	講師派遣	
		株式会社トドロキデザイン	実習	
山形村 郷土愛育成事業リーフレット・ノベルティデザイン	山形村	実習		
映像表現	科目担当授業	株式会社ズズザウルス	講師派遣	2020年5月～10月

(3) インターンシップ

当年度設定したインターンシップの受け入れ先は下表のとおり。新型コロナウイルス感染症の影響により、受け入れ先を縮小した。

受入先企業名 (敬称略・順不同)
株式会社アドイシグロ／有限会社アドフォート・トリム／クリエイティブファクト株式会社 ／株式会社マルサン工芸

(4) 各種検定

当年度設定した検定の実施結果は下表のとおり。

種 類	VD2			VD3			VA2		
	志願	受験	合格者率	志願	受験	合格者率	志願	受験	合格者率
レタリング検定3級	28	26	18 69.2%	2	2	1 50.0%	3	3	2 66.7%
レタリング検定2級	1	1	1 100%						
色彩士検定3級	29	28	26 92.9%	2	2	2 100%	13	13	8 61.5%
Illustrator クリエイター能力認定試験	12	12	11 91.7%	4	4	4 100.0%	8	8	4 50.0%
Photoshop クリエイター能力認定試験	12	12	7 58.3%	4	4	3 75.0%	8	8	5 62.5%
日本語検定3級	28	28	認定/準認定 16 57.1%	2	2	認定/準認定 2 100%	14	14	認定/準認定 7 50.0%
美術検定4級	2	2	2 100%				3	3	3 100%
ビジネス能力検定ジョブパス3級	14	14	12 85.7%	4	4	3 75.0%	12	12	8 66.7%
フォトマスター検定3級	5	5	0 0%	2	1	0 0%	9	9	3 33.3%
ブランドマネージャー資格検定3級	7	7	5 71.4%						

(5) クリエイティブプロジェクト

社会に向け創造性教育の必要性そのものを伝えるべく、専門課程の教育活動の枠を超え様々なクリエイティブ企画を推進している。

①クリエイティブフラッグプロジェクト

デザイン・アートは社会に大きな役割を担うことをアピールし、クリエイターの活躍の場を広げる。デザイン・アートの力により、社会を彩るプロジェクト。様々なビジュアルで彩ったフラッグを制作し、町を彩る。

本年度の主な使用は 年度内 長野美術専門学校敷地周辺（オープンキャンパス開催時）

②美専展 2021 ※別紙資料参照

美専展は学生の総合制作を公開する授業目的のプロジェクトであるが、社会に向けた創造性教育の必要性を伝える目的により、当該年度の教育課程において企業等との連携活動による成果物の公開を学校側により行う。学生と学校との協働展となっている。

③未来のこどもラボ協働

主催：「未来のこどもラボ」実証研究事業体

“地域の力による、地域のこどものための、地域の創造性醸成、

この命題を掲げ、本校の教育目的に沿った取組を他の団体等を一体となり実践的に研究して

いる。平成 30 年度より飯綱町立旧牟礼西小学校の廃校舎を利用して活動を始めた。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ワークショップ等の講座を開設するイベントは中止し、昨年度までの 2 年間の活動の振り返りと記録誌の編纂を行った。

3 入学志願者数・受験者数・合格者数等の入学試験に関する状況

月	日	曜日	試験種別	対象学科 (VD 科=ビジュアルデザイン科/VA 科=ビジュアル アート科/PDE 科=プロジェクトデザイン工科)
8	1	土	AO 選考 学習体験 1	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
8	29	土	AO 選考 学習体験 1	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
10	24	土	前期自己推薦選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
11	28	土	中期自己推薦選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
			前期選考	PDE 科
12	19	土	後期自己推薦選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
1	23	土	第 1 回一般選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
			中期選考	PDE 科
2	20	土	第 2 回一般選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
			後期選考	PDE 科
3	20	月	第 3 回一般選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制
4	6	火	第 4 回一般選考	VD 科 (2 年制/3 年制) VA 科 2 年制

選考結果

(単位：人)

学科	志願者数	受験者数	合格者数	令和 3 年度 入学者数
ビジュアルデザイン科 2 年制	19	19	19	18
ビジュアルデザイン科 3 年制	11	11	10	10
ビジュアルアート科 2 年制	17	17	17	16
合 計	47	47	46	44

4 卒業生数・修了者数・称号授与数等の状況

(単位：人)

課 程	学科名	4月 開始時	休学	退学	卒業 (専門士)	転学科	3月末 在籍者
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科 2年制	44	1	2	12	2 -2	30
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン 科3年制	6	0	0	0	2 -1	7
文化教養専門課程	ビジュアルアート科 2年制	28	0	0	13	-1	14
文化教養専門課程	プロジェクトデザイ ン工科	0	0	0	0	0	0
合 計		78	1	2	25		51

5 学生の就職・進学状況

卒業生25名のうち、就職を希望した者は9名で、その内就職した者は8名であった。希望者に対しての就職率は88.9%となった。又、進学をしたものは2名であった。

科	卒業生 数	就職希 望者数	内就職者 数(率)	進学希 望者数	内進学 者数
ビジュアルデザイン科2年制	12	8	7(87.5%)	1	1
ビジュアルデザイン科3年制	0	0	0	0	0
ビジュアルアート科2年制	13	1	1(100%)	1	1
プロジェクトデザイン工科	0	0	0	0	0
合 計	25	9	8(88.9%)	2	2

(単位：人)

6 基幹委員会運営

(1)自己点検・評価委員会

教職員・講師及び卒業生へのアンケートを実施し、その分析を踏まえ令和元年度における自己点検評価を行った。

役職名	氏名	所属・役職	開催日
委員長	小林 勝彦	校長	令和2年9月24日(木)
委員	松本 直樹	副校長	
委員	小林 理砂	総務長	

(2)教育課程編成委員会

専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等との連携による専門分野の動向や必要となる知識・技術・技能について、本委員会にて把握・分析し、授業科目の設置や授業方法の改善策を策定することで、本校の専門課程における実践的な職業教育の教育課程の編成に反映させることを目的としている。

開催日 第1回 令和2年10月22日
第2回 令和3年2月12日

役職名	氏名	選任区分	所 属
		委員会規則 第4条	
委員長	小林 勝彦	4号	長野美術専門学校 学校長
委員	辻 圭介	1号	長野県デザイン振興協会 事務局長
委員	高木 公位千	3号	クリエイティブファクト株式会社
委員	寺島 克己	5号	長野美術専門学校 ライン主任代表
委員	本藤 佳代子	5号	長野美術専門学校 プロジェクトデザイン工科学科長
委員	轟 久志	5号	長野美術専門学校 ビジュアルデザイン科3年制学科長
委員	相澤 徳行	5号	長野美術専門学校 ビジュアルデザイン科2年制学科長
委員	鴨林 朱実	5号	長野美術専門学校 ビジュアルアート科2年制学科長
委員	塚田 佳子	5号	長野美術専門学校 キャリア指導主事

(3)学校関係者評価委員会

本校と連携授業等で関係している企業や学識経験者、本校学生保護者、卒業生から選ばれた委員による学校関係者評価委員会を設置し、本校の自己点検・評価の結果が適切かどうか、またその結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか等の評価を行い、今後の学校運営改善のための参考としている。

開催日 令和2年11月30日

役職名	氏名	選任区分	所 属
		委員会規則 第4条	
委員長	松井 秀夫	1号	NPO法人夢のデザイン塾 副理事長
委員	基井 照明	2号	株式会社日商印刷 専務取締役
委員	岩崎 弘明	2号	富士ゼロックス長野株式会社
委員	淀 由利子	4号	令和2年度在校生保護者
委員	荒井 瑞貴	5号	平成18年度卒業生

7 教職員研修

本校教職員研修規則に定める教員研修は、専攻分野の専門性の学びについて、学生の就職先などの進路への通用性や分野動向への対応性及び、職業人として求められる人間力を教員自身が調べ、学び、企業等の人材需要に応じていくために企業等との連携により実践性を踏まえて行なう。また職業人育成のための教育的知識・指導力を高める目的により、本校の教育活動に適した教育理論や技術の研修を行なう。研修の取り組みにあたっては、教科運営を行なう立場から教務部署がこれらの目的を賄う成果をあげるため、教科会、主任会、職員会等に働きかけ学校全体としての活動となるよう先導するものとしている。本年度は「新型コロナウイルス感染症」感染予防の措置により、外部会場及び企業への参加の形を避け、又、本校開催研修においても遠隔による講義や、研修者の ZOOM による参加も可とし、研修自体が中止とならないよう対策を講じた。

目的	研修内容・テーマ	研修先又は講師派遣先	形態	研修日
指導力向上	「学生の修学モチベーション維持と学生に求められる労働観について」	オリオン機械株式会社 管理本部 教育担当次長	講師招聘 (ZOOM 受講可)	令和2年 11月27日
技術力向上	「ゲーム業界を中心としたデザイナー育成について」	ソルトライブホールディングス株式会社 ゲーム開発総合事業部 部長	講師招聘 (ZOOM による遠隔講義)	令和2年 11月12日

8 付帯事業

本校に設置する付帯事業については以下のとおり。

ながのこども美術学校

小学生の自我の確立へ向かう発達期に合わせ、バランスのとれた人間性の育成のために、美術による教育「美育」の活動を下表により行った。又、この講座は、本校の教科科目「美術学習論実習」を選択した学生へ指導法を学ぶ授業としても設定されている。

本年度においても、講師の調整ができず、幼児クラスは休講とした。

クラス	開講時間	開講数 ／月	入校金 入校時 (1家庭)	受講料/ 月	担当講師 (敬称略)	受講者数 (年間のべ) 単位：人
幼児 (3～6才)	10:00～ 11:30	2回	5,000円	3,640円	休講	0
小学校低学年 (1～3年生)	14:00～ 16:00	2回	5,000円	4,360円	小林 勝彦 鴨林 朱実 松本小百合	19
小学校高学年 (4～6年生)	14:00～ 16:00	2回	5,000円	4,360円	矢作 恵 青木 忠史	14

9 地域貢献

(1)学べるキャリア出張講座（長野県専修学校各種学校連合会主催）

長野県専修学校各種学校連合会が専修学校・各種学校の職業教育についての経験やノウハウ、人材を生かし、小学生・中学生・高校生・一般社会人を対象に、キャリア教育・生涯学習の一端を担い、その向上に資することを目的として設置している。本校は当年度下表のように、協力致した。

月日	講座テーマ	担当講師	出張先
令和2年8月5日(水)	プロが教える！マンガ講座	ながはり朱実 小林駿	駒ヶ根市立東伊那公民館
令和2年8月28日(水)	プロが教える！マンガ講座	ながはり朱実 小林駿	長野市立北部中学校
令和2年8月28日(水)	プロが教える！マンガ講座	ながはり朱実 小林駿	塩尻市立広陵中学校
令和2年9月18日(金)	プロが教える！マンガ講座	ながはり朱実 小林駿	長野市立櫻ヶ岡中学校
令和2年10月23日(金)	プロが教える！マンガ講座	ながはり朱実 小林駿	長野市立信更中学校
令和2年11月27日(金)	美術の基本からのデザイン体験	松本直樹 矢野瑞萌	第一学院高等学校長野キャンパス

(2)いきいき生涯学習

長野市専修学校各種学校協会が主催する「いきいき生涯学習」に、当年度は下表のように協力致した。

月日	講座テーマ	参加者数	担当講師
令和2年9月5日(土)	木のリボンでコサージュ作り	2名	相澤徳行
令和2年9月19日(土)	木のリボンでコサージュ作り	0名	相澤徳行
令和3年2月6日(土)	ギフトラッピング教室	4名	横山美智子

10 広報・学生募集活動

[活動内容] 入学促進を含む広報活動全般と、企画事業推進

- 制作活動 学校案内、募集要項、各種 DM、広報物、広告物の制作
- 調査活動 新入生分析、入学対象者分析、募集状況分析、高等学校進路状況分析のための調査
- 渉外活動 高等学校等教育機関・企業等連携機関への訪問活動などを通じた関係強化を図った
(高等学校等年間訪問実績)

月 日	訪問目的（進路指導室、事務室）
6月中旬～7月上旬	新年度挨拶、A0選考の告知・エントリー状況の報告、進路状況の把握
10月上旬～12月上旬	A0・自己推薦選考合格者の御礼、進路状況の把握
2月中旬～下旬	新年ご挨拶、一般選考合格者のお礼、美専展の告知

- 資料送付「学校案内一式、オープンキャンパス DM（開催毎）」

対 象	時 期
高等学校・予備校	訪問活動に先立ち、都度送付（訪問活動でフォローアップ）
資料請求者	請求のあった時点で、都度送付
企業・団体	当年度学校案内が完成次第、一斉送付。学校案内のみ

「美専展 DM」は、上記対象に加え同窓会（卒業生）等に拡大して送付

- 進学支援業者による進学説明会への参加

高等学校内やイベント会場で開催される進学説明会は、高校生に直接アプローチできる限られた機会であることから、機会を逃すことなく本校のクリエイティブの学びを紹介しながら、来校促進を図った。

- オープンキャンパス「自由見学会」の企画・運営

感染症対策を講じた、新たなオープンキャンパス開催の在り方として「自由見学会」を企画し、来場者へ安心感・満足感を提供した。

- ホームページ 本校情報発信の根幹
- ニュースレター配信 インターナル広報を内外に発信
- SNS 運用 多様な情報発信を行い、年代別の閲覧選択肢を広げる
(Facebook、Twitter、Instagram)

- サテライトキャンパスの運営

街とつながる広報拠点である、サテライトキャンパスの運営を企画。社学連携活動の常設展示、卒業生展や講師展などのギャラリー企画、それに付随したクリエイターズギャラリーDAYの開催、授業の一環としての学生制作活動、ながのこども美術学校のクラス別開催、などを行った。

1 1 今後の課題

本校の中長期計画においては、教育内容をより多様化し、より多くの修学動機に応じて行くとしている。又、これからの社会形成においては、「質」と「実」においてどのような価値を見出すかを最重要課題としている。少子化もさることながら、高大接続改革をはじめとする大学を中心とした「教育改革」など、教育機関を取り巻く環境は刻一刻と変化している。こうした課題を踏まえて、永年、本学が現場で培ってきた教育指針を「3つのポリシー」(ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー)としてまとめ、掲げたが、これを元に、本学のアイデンティティをより確かなものにしていきたい。

教育の多様化の視点では、本年度まで、上級学科として設置していた「プロジェクトデザイン工科」は本学専門課程や、大学等の高等教育機関の卒業者を入学対象とした学科だったが、これを廃止し、その教育の高度化方針をもとに、高等学校卒業生も受け入れ対象とした4年制学科の「com. デザイン総合学科」を次年度新たに設置し、修学対象を多様化する。

又、現行の本校独自の教育課程システム「美専修学ライン」に新たなラインを設け、広く修学動機に対応していく。

本年度、進まなかったリカレント教育の取り組みでは、文科省の「キャリア形成促進プログラム」制度の認定を目途に履修プログラムを設け、今後の専門実践教育給付(厚生労働省政策)制度の対象となるよう実績を残していきたい。

中長期課題の解決に向けても財務の安定は最重要であり、入学者の増加が急務とされているが、上記教育課程の多様化による修学動機の獲得とともに、広報活動の重要性も承知している。

本学の積み上げてきた実績の周知のみならず、社会に向け創造性教育の必要性そのものを訴えていく。そのために、専門課程の教育活動の枠を超え、クリエイティブプロジェクトなどの企画を推進していく。このことは学生募集においても効果を期待できる。又、入学制度には、従来の入試枠に指定校推薦を加えるなど志願者の増加を目標とし募集活動を促進する。

「新型コロナウイルス感染症」拡大による今般の動向を把握しつつ、本年度培った、新たな授業形態や、新規広報ツール・広報チャンネルの開発及び危機管理委員会の指針による安全対策等、柔軟に対応することで、さらなる入学志願者の増員を目指していきたい。

III 財務の概要

1 財務概要の経年比較

年度	正味財産額（円）
平成 28 年度	82,791,579
平成 29 年度	97,023,021
平成 30 年度	111,777,751
令和元年度	100,979,766
令和 2 年度	91,781,870

経常収支差額がマイナスになったことにより、前年度より低い結果となった。

2 当該年度の決算の概要

令和 2 年度の決算は、学生生徒納付金収入は前年度とほぼ同額となった。予算当初から費用の縮小を目指していたが、今般の「新型コロナウイルス感染症」拡大防止への対応により、遠隔授業用機材等、消毒関連費用等の予定外の費用が大幅に膨らむことが避けられなかった。

支出については、人件費は予算より 100 万円程の減に抑えた。教育研究費において、予算より大幅に増加したものは、上記理由にて消耗品費と教材費及び通信費である。通信費においては年度当初登校授業が行えず、遠隔授業を進めるために新入生の教材等や授業課題の添削等を郵送したためである。その他費用縮小の方向で予算をたてたが、ほぼ全ての項目において予算を上回る支出となったことは、反省すべきところである。賃借料と広告宣伝費の比率が高いことは、収入増を目指すべく学生数の増加が必須であることから、本校においては広報活動の充実が最重要となっているためである。広報活動の拠点であるサテライトキャンパスの家賃及び進学支援業者への年間契約による部分が大きい。

予算に対しての達成率で示すと、収入では教育活動収入合計 95.38%、教育活動資金収支差額が -44.61%、経常収支差額-3470.90%。支出についての達成率は、人件費 97.71%、教育研究費 98.70%、管理経費 87.16%となり、支出合計は 93.64%。次年度繰越資金の達成率は 101.08%となった。

費用の減少に対して収入の減少が多いことが赤字の要因である。経常収支差額が大幅なマイナスになったことは大きな課題であり、前年度もマイナスであったことから、次年度が気がかりなところだが、令和 3 年度開始にあたって、学生総数が 95 名になり、プラス転換を見込んでいる。これは、3 年次学科や WEB メディアラインなど教務策の充実や、修学サポートによる退学防止策の効果、また広報力の拡充などの積極策の結果が出始めてきたものと考えられる。今後も定常的に毎年目標 50 名の入学者による経営安定のため、また避け難い少子化への対策のため長期的な視野を持ち、将来のための投資としてより積極的な方策に取り組んでいく必要がある。

3 主な財務比率

事業活動収支計算書において、

教育活動収支収入の内訳は、学生生徒納付金収入は全体の 95.70%、補助金が 1.70%となる。

教育活動収支支出の内訳は、人件費が全体の 52.50%、教育研究費が 8.15%、管理経費が 39.35%となる。

教育活動外収支の内訳は、収入では受取利息が 100%、支出では借入利息が 100%となる。

4 主な施設設備の整備状況

引き続き環境の維持管理が主であったが、「新型コロナウイルス感染症」拡大防止措置として、遠隔授業を行うための WEB カメラや付随する映像関連機器等の補充をした。

建物付属設備及び構築物に予算額が計上されていたが、今期の支出は控えた。